



通常国会、懸案を残し閉会

通常国会は小幅な延長の末、6月21日に会期末を迎え閉会となりました。民主党としては、この国会に68本（継続を含む）の議員立法を提出し、内閣提出あるいは与党提出法案を含め22法案を与野党協議の上成立させました。これは参議院での与野党逆転の影響が大きく現れたものと言えます。

この国会の前半は道路特定財源と暫定税率、年金記録の問題、後半は4月から発足した後期高齢者医療制度が大きな議論になり、参議院の力も相まって、政府・自民党はほとんど防戦一方になりました。しかし、これら3つの課題はいずれもまだ解決には程遠く、今後もさらに追及していかなければなりません。

道路特定財源の問題

道路については、福田総理は一般財源化を約束したものの、法的には暫定税率も道路特定財源も向こう10年はそのまま維持することになっています。これは2つの法案を衆議院で3分の2による再可決をした結果です。今後、本当に一般財源化するのか、仮にそうであっても、道路以外の福祉や医療、環境、教育といったところに配分されるのか、また、地方が自主的に用途を決めるような制度になっていくかどうかなどが問題です。

年金記録問題

年金記録については、政府もやっとかねてから民主党が提案していたような全加入者への照会を始めましたが、いろいろな点で問題が起こっています。参議院選直前に立ち上げた第三者委員会もまったくと言っていいほど進

んでいません。まさに泥沼といったところです。

後期高齢者医療

後期高齢者医療制度については、政府・与党はあまりにも大きい国民からの批判に対して、低所得者への運用面での配慮を行おうとしています。しかし、この制度は動機がそもそも高齢者の医療費削減であり、75歳以上という差別的な切り分けをしていることが問題なのであって、小手先の修正では決して解決するものではありません。私たちはあくまで制度を一旦廃止し、老人保険制度に戻したうえで、制度論をさらに議論すべきだと考えています。



衆議院の解散を求める

いずれにしても、これらの問題の行く末は、秋からの与野党の攻防にかかっていますが、本筋は衆議院の解散・総選挙で国民の声を問うことだという点を再度強調しておきたいと思います。

NC法務大臣として活躍

この通常国会で、細川律夫代議士は民主党法務部門と衆議院法務委員会を足場に様々な活動を行いました。法務委員会では一般質問や法案審議などで8回質問に立ち、さらに少年法改正案の審議の際は衆参両院の法務委員会で答弁に立つなど、八面六臂の活躍ぶりでした。



参議院法務委員会で答弁する細川議員
右は鳩山邦夫法務大臣

徳島刑務所を視察

6月16日、民主党法務部門で、徳島刑務所を視察しました。

昨年、徳島刑務所では、受刑者の人権を侵害するような医療行為によって、受刑者からの苦情が続出するという事態になり、さらに11月、その医療行為も一因となったと思われる集団暴行事件が起こりました。民主党法務部門としては、それらの実態を明らかにするため、議員11名らで徳島刑務所を訪れ、診療室や暴動が起こった工場などの視察の後、刑務所での処遇や運営に対し意見を言う立場の視察委員会委員の皆さんや、刑務所の職員、法務省の官僚らと意見交換をしました。しかし、議論の多くはすれ違いに終わりました。



受刑者といえども、一切人権を否定されるのではありません。今後もこうした刑事施設の問題についても、

行政を監視する立法府として、調査していかなければなりません。

「副都心線」開業式典に参加

池袋、渋谷などを結ぶ東京メトロ「副都心線」が6月14日に開業するのに先立ち、13日、記念式典が新宿三丁目駅ホームで行われ、細川代議士も参加しました。式典の後、細川代議士は、都知事や他の国会議員などと、新宿3丁目・渋谷間を試乗しました。

タクシー問題で緊急提言

6月11日、民主党は「タクシー問題に関する緊急提言」を冬柴国土交通大臣（写真中央）に提出しました。規制緩和に伴いタクシーが増加した結果、事故の増加、道路渋滞、環境への悪影響、運転者の労働条件の悪化など、様々な問題が起こりました。この日、細川代議士（党タクシー関連法案等検討小委員会座長）らは大臣に対し、増車をストップさせるなど国土交通省が緊急な対策をとるよう、要請したものです。大臣は、提言の趣旨は理解し、検討するなど回答しました。



細川律夫より一言
お久しぶりか。昨午の参院選後から続いた国会も前週終了した。おじれ口会の中、政府率の大巾修正。情報公開が大々前進した。年金、道路財源、肝炎など民主党の追求により、隠れた事実が次々と明らかになり、更に拍子打りあり。